

抗 Gcn5 (*S. cerevisiae*) 抗体, ウサギ抗血清

62-003 100 µl

保存: 4℃または-20℃で送付、-20℃長期保存

免疫原: 大腸菌で発現させた His-Tag 付組換え体酵母 GCN5 タンパク質(1-300 アミノ酸)

形状: 0.1%アジ化ナトリウム添加抗血清

反応性: 出芽酵母 Gcn5 タンパク質

用途: ウェスタンブロット法 (1/500~1/1,000)

背景: **Gcn5p** を触媒サブユニットとするヒストンアセチラーゼ複合体であり、Taf1p を触媒サブユニットとする基本転写因子 TFIID と重複した機能を持つ。ただし SAGA (Spt-Ada-Gcn5 histone acetyltransferase complex) と TFIID には役割分担があり、それぞれハウスキーピング型遺伝子群、ストレス応答性遺伝子群の転写において重要な役割を果たすといわれている。また SAGA は、Ada タンパク質群 (5 種類)、TBP 関連タンパク質群 (4 種類)、TAF タンパク質群 (TFIID にも共通に含まれる 5 種類)、その他のタンパク質群 (>6 種類) から構成される巨大なタンパク質複合体である。その分子機能としては、ヒストンの化学修飾、直接的な相互作用を介した転写調節因子の DNA 上へのリクルート、TBP を介した転写開始反応制御などを挙げることができる。ヒストンアセチラーゼ活性を示す **Gcn5p** は上記 Ada タンパク質群の一種であり、出芽酵母の場合、439 個のアミノ酸残基 (aa) から構成される。

データリンク SGD [5GCN](#)

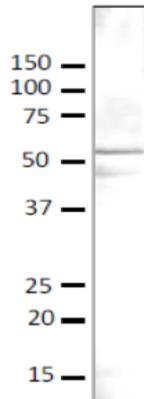


図 1. 抗 Gcn5p 抗体を用いたウェスタンブロット法による酵母粗抽出液中の Gcn5p タンパク質の検出

S. cerevisiae BY4741 株の菌体粗抽出液を用いた。

抗 Gcn5p 抗体は 1/500 希釈で使用した。二次抗体として HRP 結合したヤギ抗ウサギ IgG 抗体を 1/500 希釈で使用した。

シグナルエンハンサーとして東洋紡の CanGet Signal を使用した。

Gcn5p タンパク質の分子量は 51 kDa である。

文献:

1. Grant PA *et al.* "Yeast Gcn5 functions in two multisubunit complexes to acetylate nucleosomal histones: characterization of an Ada complex and the SAGA (Spt/Ada) complex." *Genes Dev.* **11**: 1640-1650 (1997) PMID: [9224714](#)
2. Syntichaki P *et al.* "The Gcn5.Ada complex potentiates the histone acetyltransferase activity of Gcn5." *J. Biol. Chem.* **273**: 24414-24419 (1998) PMID: [9733731](#)